



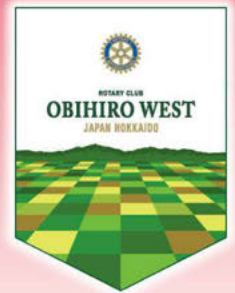
世界に希望を生み出そう

帯広西ロータリークラブ

第2450回例会

2023.10.12

会報



■RI第2500地区スローガン■

今こそ変わる勇気を！
さあ、一步前へ

■クラブ・テーマ■

皆に希望と笑顔と愛を！
ロータリーを楽しみながら活動しよう！

■米山記念奨学生

ファトヒ、アテフェ 様

■10月誕生祝

佐々木嘉晃	会員	1956.10. 5
斉藤 正彦	会員	1959.10.13
松田 貴史	会員	1963.10.13
山口 貴可	会員	1963.10.18
松見 喜明	会員	1964.10. 4
伊東 肇	会員	1967.10.22
平田 宗利	会員	1974.10.14
板倉 利幸	会員	1979.10. 3

■10月結婚祝

鈴木 享	会員	1971.10.24
林 文昭	会員	1976.10.21
越智 孝佳	会員	1979.10.15
宮前 友江	会員	1987.10.12
鎌田 裕樹	会員	1988.10. 8
斉藤 正彦	会員	1989.10.14
岡田 英樹	会員	1993.10. 9
上野 庸介	会員	2002.10.14
梅田 和志	会員	2010.10.25

■会長報告

天野 清一 会長

こんにちは、会長報告させていただきます。会場がポロシリで久しぶりに例会を行うので懐かしくとも思っています。まずもって先週の紋別市おきましての地区大会多数の参加いただきまして誠にありがとうございました。次年度小谷ガバナー輩出クラブとして地区内でも改めて当クラブのことを表すことが出来たと思えます。次年度の地区大会のPRも無事終えたことに安堵しています。先輩達には何年も前からプレッシャーをかけて頂きあの場所での挨拶はなかなか出来ることの出来ないことだと自分自身に問いかけてなんとか終わりました。

本日乗り物でも飛行機のことをお話させていただきます。私は乗り物好きで自分では操縦できませんが良くゴルフ場で空港の近くのコースではプレイ中にとっても大きな音がして上空を見上げながらジェット機を見ながらコース歩くのが好きです。あんな大きな重い機体

が飛んでいるのが不思議で最近はユーチューブで色々参考になるのが多いのでとても楽しく見えています。私はボーイング747のジャンボジェット機が一番好きでした、見るのも乗っても一番楽しく思い出しているのは、たまたま友達と4人で沖縄でゴルフ旅行の帰り運良く当時スーパーシートプレミアムとジャンボ機の1階の先端の方に座ること出来て友達は嬉しさのあまりワイン飲みすぎてCAから、もうワイン等はありませんと言われ爆笑しました。声が大きい友達なのでうるさかったのでしょうか！

そんな事もありJALもANAも747ジャンボ機は退機しましたが国内でのデビューは1970年に就航して150機以上の747が日本の空を飛びました。初期型全長70.6メートル、全幅59.6メートル、機体重量162トン、最終型は全長76.4メートル、全幅68.5メートル、機体重量180トンととても大きな飛行機でした。国内最終便は2014年3月31日沖縄から羽田までの便で昔私達4人で乗った13年後の沖縄からのANAのジャンボ機の便でした。

以上会長報告終わります。

■会務報告

立崎 貴之 幹事

①帯広東RC、夜間移動例会開催のご案内

日時 10月24日(火)午後6時30分
場所 幕別パークホテル悠湯館

②帯広西RC、夜間移動例会開催のご案内

日時 10月26日(木)午後6時30分
場所 北の屋台

※集合は18:00～シャレードで受付をし、18:30より例会セレモニー開催後に北の屋台へ移動します。

③帯広南RC、10月30日(月)の例会は、休会と致します。

④帯広東RC、移動例会開催のご案内

日時 10月31日(火)午後0時
場所 大樹町宇宙交流センター

⑤例会終了後、定例理事会を開催致します。

■ニコニコ献金

菊池 俊博 親睦活動委員

天野 清一 会長

紋別地における地区大会51名の方に来ていただき、ありがとうございました。私の役目も一つ終わります。



会長 天野 清一 副会長 上野 裕司 会場監督理事 伊藤 公康 発行：広報委員会
幹事 立崎 貴之 副会長 柳沢 一元 プログラム委員理事 近藤 真治 委員長 板倉 利幸 (副) 朴 昌人



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル東館3階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

したが、会長としての仕事は、まだまだあるので、気を引き締めて頑張ろうと思います。地区親睦ゴルフ北見でのゴルフからホームコースの国際カントリーに変更し、年齢差で萱場会員の譲位で優勝させていただきました。

立崎 貴之 幹事

紋別地区大会、多くのメンバーでご参加いただき、ありがとうございました。無事、終える事が出来ました。

古田 敦則 地区大会実行委員会幹事

地区大会、多くの参加、ありがとうございました。いよいよ次年度の地区大会の準備が始まりますので、宜しくお願い致します。

川田 章博 会員

久しぶりの出席です。皆さんに会えるのでウキウキしています。

長平 圭太 会員

地区大会前の親睦ゴルフコンペで真ん中賞、地区大会ゴルフ大会で8位に入賞することが出来ました。今年度初めてのニコニコです。

菊池 俊博 会員

本日、ニコニコ発表させて頂きました。

ニコニコ	10月12日	19,000円
献金	累計	199,000円 (10月12日現在)

◇プログラム

天野 清一 会長

「米山記念奨学金制度を知ろう」



上野 庸介 委員長

お疲れ様です。本年度、米山記念奨学金委員会委員長の上野庸介です。今日は米山記念奨学金制度をみなさんに知って頂くという事で、3部構成で例会を組み立ててみました。まず、米山奨学生のアテフェさんから、ご自身の研究生生活と米山奨学金の関係、どのようにお役に立っているのかというお話をして頂きます。その次に、本年度2500地区に出向して頂いている長平さんから、地区ではどのような委員会活動が行われているのかをお話ししていただきます。残った時間、最後に私が昨年度の実績・寄付額等々を用いて全国から見た2500地区、それと2500地区から見る帯広西ロータリーの立ち位置のようなものをお話しさせて頂いて最後、皆様に寄付をお願いするという例会にしたいと思います。今日は宜しくお願いします。

人々と話し、少し日本語を話す機会が得られました。特にカウンセラーのサポートには感謝しています。カウンセラーの存在は私の人生に大きな影響を与えてくれました。

畜産大学を卒業した後は、イランに戻り、ロータリーコミュニティとのつながりを保ちたいと思っています。教育において他のイラン人学生を支援し、支援できるようにしたいからです。この取り組みは、文化の橋渡しと知識の育成という私の将来の計画にとって重要な部分です。実際、ロータリー米山奨学金と帯広西ロータリークラブでの経験が、母国からの学生の将来の教育の旅をサポートし、指導するきっかけになりました。

上野 庸介 委員長

ありがとうございました。今、2500地区には9人の奨学生の方がいらっしゃるという事です。7月にこの地区の米山セミナーの時にも奨学生がいらっしゃるクラブでは、積極的に話す機会を創って欲しいという事でしたので、今日、こうしてお願いしました。また度々いらっしゃると思いますので、皆さん、是非、コミュニケーションをとって頂きたいなと思います。次に2500地区の米山委員会に出向して頂いている長平さんの方から地区での活動について皆さんにご報告がてら発表していただきたいと思います。



金澤 宗一郎 国際奉仕委員長

今年度からファトヒ アテフェさんを帯広西ロータリークラブの奨学生として2年間、所属して頂きます。本日は、その米山奨学金をファトヒさんが受けて、日本で博士課程の学業に今、取り組み事が出来ているというところで、今の彼女の研究内容であったり、日本での研究生生活の思いであったり、帯広西ロータリークラブとの関わり合いをどの様に感じたのかというのをお話しして頂きたいと思います。



長平 圭太 2500地区米山奨学運営委員

皆様、こんにちは。今年度よりRI2500地区 米山記念奨学会運営委員会の方へ出向させて頂く事になりました広報委員会の長平です。本日は上野庸介委員長より地区の米山記念奨学会運営委員会がどのような事を行っている委員会なのか教えて頂きたいとまるで市議会で質問するかのように言われましたので、出向してまだ4ヶ月しか経っておりませんが、先日紋別で行われました地区大会での感動的な米山記念奨学生のスピーチの裏話を含めて少しお話しさせて頂きたいと思いません。本日は宜しくお願い致します。



ファトヒ アテフェ さん

日本での博士課程の研究のためにロータリー米山奨学金を受け取ることができて大変光栄です。帯広西ロータリークラブの一員になれたことにも同様に感謝しています。

日本での研究生生活は、勉強や研究をしながら、文化に浸り、北海道の自然の美しさを鑑賞し、ウィンタースポーツを楽しむことができ、とても魅力的な旅でした。

畜産大学での私の研究は、世界中の畜産業に重大な脅威を引き起こす牛バベシア症という牛の病気に関する研究です。牛は肉と乳製品の主な供給源であり、私の研究の目的は、この病気に対する優れたワクチンを見つけることです。

帯広西ロータリークラブに参加することで、多様な

地区の米山記念奨学会運営委員会には7つの役割がございます。まず1つ目は米山記念奨学事業の理解促進です。一人でも多くのロータリー会員に米山奨学事業を知って頂くためにPETSでの会長エレクトを対象とした米山部門のセミナー。主に10月の米山月間で

行われる奨学生による卓話。またクラブの米山奨学委員長を対象とした地区研修・協議会や米山奨学会での米山部門のセミナー。カウンセラーが受けるカウンセラー研修会。学校に対しての説明会や奨学生オリエンテーションなど各種セミナー、研修会を企画し開催して理解促進に努めております。

2つ目は寄付増進です。米山奨学会への寄付に対する理解促進、特に新入会員に対して理解して頂けるように努めております。PETS、地区協議会、ガバナー公式訪問などでも寄付に対して理解を促進し、寄付金動向を把握し増進への工夫に努め、前年度を上回るような目標達成の管理を各クラブへお願いしております。

3つ目は指定校選定、奨学生選考、採用及び世話クラブ選定とオリエンテーションの開催です。毎年6月初旬に米山の理事会が開催され地区別の奨学生割当数が決定致します。これに基づき、奨学会から地区へ資料とともに指定校の選定依頼がきます。次年度2500地区の指定校は帯広畜産大学、旭川医科大学、北見工業大学、旭川市立大学、東京農業大学、育英館大学、旭川工業高等専門学校、釧路工業高等専門学校の8校となります。その後募集数の決定、奨学生の選考合否の決定、世話クラブ・カウンセラーの選定、奨学生終了式に奨学生オリエンテーションを開催するまでが地区の米山記念奨学会運営委員会の仕事となります。今年度の奨学生選考は12月10日（日曜日）に帯広で行われる予定で、30名程度が面接に来る予定です。

続きまして4つ目は奨学生ケアと世話クラブ・カウンセラー制度の充実です。奨学事業の価値は、どんな奨学生を採用したかで決まります。奨学生にはロータリーの例会や奉仕活動に参加することによって、日本の文化、習慣などを学び、社会参加と社会貢献の意識を育て、将来、世界平和の創造と維持に貢献する人物になる事が期待されます。ロータリー会員と奨学生との交流の中で、お互いに刺激しあう関係こそが事業の特長であり、その源が「世話クラブ・カウンセラー制度」です。奨学生1人1人に、地域ロータリークラブから世話クラブが選ばれ、さらにそのクラブの会員からカウンセラーが付いて、奨学生との交流を深め、日本での生活が心豊かなものになるよう配慮します。奨学生はロータリー会員との交流を通じて、奉仕の精神に触れ、自らの精神を磨き、人生観・職業観を深めます。またロータリー会員にとっても金銭的な支援だけでは得られない感動と、事業への深い理解が生まれ、さらなる支援への意欲を盛り立てます。奨学生、ロータリー会員双方にとって、大きな感動を生む事業だからこそ、50年以上も継続し、全国規模に発展、財団法人の設立に至り、民間最大の国際奨学事業に成長しております。「世話クラブ・カウンセラー制度」は、この事業の付加価値ではなく、事業の神髄と言えます。当クラブはファトヒ・アテフェさんの世話クラブであります。クラブを代表して金澤宗一郎会員がカウンセラーとなりしっかりと彼女をサポートしてくれています。アテフェさんは当クラブで2年間お世話をするようになっております。金澤会員だけがお世話をするのではなく、当クラブ会員全員で時には自分の子供のように、時にはクラブの仲間のようにもっと積極的に交流、サポートして頂き、アテフェさんが目標としてきた学業の達成を支援し、ロータリー精神を学んで頂きたいと思っております。またアテフェさんも大学の勉学で大変お忙しいかと思っておりますが、西クラブの会員ともしっかりとお話しをして日本語を勉強して頂き、もっと西クラブに馴染んで頂きた

いなと思っております。アテフェさんが将来、日本と母国の架け橋となる人材となって、また再びこの帯広西ロータリークラブに帰ってきてくれることを心より願っております。

続きまして5つ目は奨学生の提出する書類などの徹底とフォローです。奨学生は「奨学生レポート」と、「例会出席・奨学金受領確認書」など必ず提出して頂く書類があります。また必要に応じて「休学届」、「復学届」、「辞退届」はクラブ会長とカウンセラーの署名が入った原本の提出が義務付けられております。2009学年度から確約書において、原則として「例会出席」、「レポート提出」、「卓話実施・地区行事参加」に正当な理由なく協力しなかった場合、奨学金の支給が打ち切られることがあると明示されています。これは打ち切る事が目的ではなく、最低限のルールを守る事を徹底し、それでも改善がない場合、最終的手段として奨学金を打ち切れることもできるということです。奨学生にはこの事についてしっかりとご理解をして頂けたらと思っております。

6つ目は学友・学友会との連携です。学友会とは米山記念奨学生の同窓会組織です。日本国内では33学友会、海外では10学友会、合計で43学友会が組織されてます。学友会の活動を見守り、協力し活動促進に努めております。元奨学生でロータリー会員になった方は現在273名となっております。お知らせがないければ登録されまないので、実際はもう少しロータリー会員になっている学友もいるとの事です。学友が将来ロータリー会員になることがこの事業も目的ではありませんが、目に見えてロータリーらしい人物に成長してくれたという成果がロータリー会員になったという事ではないかと思っております。

最後の7つ目は収支決算報告書の作成と提出です。米山奨学事業には地区資金一般会計とは別に公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より地区米山奨学生活動費、選考試験補助費、カウンセラー研修補助費、学校説明会開催補助費、ホームカミング制度補助費の補助費が支給されております。地区の一般会計との混同を避けるために、米山専用口座を開設して資金を管理しております。財団から頂く補助金につきましては管理担当者を決め、担当者は地区米山奨学生活動費と選考試験補助費など別々に収支報告書を作成し、ガバナー、理事、米山奨学委員長の監査を受け監査者の署名と捺印を得た報告書を財団法人ロータリー米山記念奨学会に提出しており、適切に管理運用しております。

以上の7つが、米山記念奨学会運営委員会の役割となっております。2500地区は各クラブから出向している10名の方で委員会が構成されております。単年度で委員が交代することなく、複数年度に渡り委員を務めて頂く方と、新任の委員によってバランスよく構成するようになっております。長年培っている学校との信頼関係、米山学友会との連携、カウンセラーと協同して取り組む奨学生育成など、米山奨学事業を充実させるために年間計画を立て、継続性・計画性のある組織づくりを目指しております。私も暫くの間、米山の委員として活動していく事になると思っております。先月9月に北見で行われましたカウンセラー研修会で委員会の皆様とお話する機会がありましたが、3年ぐらいい頑張ったら卒業ですよ？とお尋ねしたら、「いやいや、そんなもんで辞めれないですよ、最低でも5～6年はやってもらいますよ！いや、もっとかな・・・」と脅されてしまいました。しかしこのようなロータリー活動の中で特色のある事業に携わることができる機会を

与えて頂き、今は本当ありがたく思っております。微力ではございますが、2500地区の米山奨学事業の発展、また2500地区の奨学生のためにしっかりと汗をかき働いて行きたいと思っておりますので、皆様方には引続きのご支援、ご協力の程宜しくお願い致します。

最後に、先週紋別で行われました地区大会でのお話しをさせて頂き終わりにさせて頂きたいと思えます。

米山奨学生は地区大会でスピーチをすることが義務づけられております。スピーチの目的はロータリー会員の皆様に自分を知ってもらう事、そして「米山奨学生を支援して良かった」と思ってもらう事です。どんな内容でスピーチしたら良いのか事前にお話しさせて頂いており、まずは自分がどんな人か、出身国や家族のこと。どうして日本を選んだのか？来日してどうだったか？日本の好きなどころ、苦手などころ、驚いたこと、母国との違い。どんな研究をしているのか？将来の目標や夢。ロータリーとの関わり、奨学金によって何がどのように変わったのか？日本の文化やロータリー会員との出会い、具体的なエピソードなどを1人3分程度でスピーチして下さいとお願いしてあります。長くてもダメ、短くてもダメという事で、奨学生はまずスピーチする原稿をカウンセラーに見て頂きながら作成致します。そして出来た原稿をきちんとスピーチできるように練習に練習を重ねていきます。そしていよいよ本番当日です。

朝9時30分までに会場の奨学生控え室に集合して頂きます。本日のスケジュールをお話ししたあと本会場入りをし、本会議で米山奨学生の1人1人が紹介され、それが終わると直ちに控え室に戻り、各自用意してきたスピーチを皆の前で1人ずつ発表いきます。なかなか日本語がうまく話せないながらも、どの奨学生も皆一生懸命スピーチをしており、その姿を見た時には何かジーンとくるものがありました。スピーチ終了後、スピーチ時間、内容、言い直しなどを米山記念奨学会運営委員がチェックし内容を修正していきます。修正後はまた一人ずつ皆の前で発表をしていき、うまくいくまで練習します。昼食を取りいよいよ本番となります。奨学生はステージでリハーサルを行い、ステージ裏で待機します。さすがに沢山のロータリアンの前でスピーチとするあってどの奨学生からも物凄い緊張感が伝わってきました。いよいよ本番です。大会に参加した会員の皆様はよくわかると思いますが、どの奨学生も一生懸命にスピーチしていました。また世話クラブから奨学生に向けての応援の掛け声も何とも温かく嬉しく感じた瞬間でした。きっと奨学生もあの掛け声で勇気と元気をもらったことだと思います。当クラブがお世話しているアテフェさんも日本語がうまく話せない中で本当に頑張っていました。私はアテフェさんの原稿修正のお手伝いをさせて頂きましたが、そこにはローマ字と日本語、英語と3ヶ国語の文字がびっしりと書かれており、頑張って作ったことがはっきりとわかりました。全ての奨学生のスピーチが終わった時は本当に感動し、凄く嬉しくいい経験をしたなと感じた瞬間でした。奨学生の夢と目標達成をしっかりと支援し、ロータリアンとの交流を通じてロータリー精神を学び、国際理解を深め、国際親善に尽くす人材となるようにするのが世話クラブの役割です。来年の地区大会は帯広です。小谷カバナーの基、来年アテフェさんがスピーチする際には皆で大きな声で掛け声をかけて、しっかりとアテフェさんを勇気づけて応援して頂きたいというふう思います。皆様宜しくお願い致します。

最後になりますが、「奨学事業の価値は“どんな奨学生を採用しかた”で決まります。さらに意味のあることは“どんな奨学生に育てたか、育ててくれたか”です。」この言葉は米山記念奨学会奨学事業ハンドブックの中に記載されております重要で大切な言葉です。是非皆様にこの言葉を知ってもらい覚えて頂き、実践して頂けたら大変嬉しく思います。以上、私からのお話しを終わらせて頂きます。ご清聴ありがとうございました。



上野 庸介 委員長

ありがとうございました。最後に2022年度・23年度の米山記念奨学金の実績、2つの事について検証していきたいと思えます。

一つ目は、よく言われる全国的に見て2500地区というのは寄付額が少ないという風に言われているけれども、それは本当かという事です。一人当たりの寄付額というのは、1位は神奈川県で、27,903円となっておりますが、2500地区というのは、札幌よりも少ない金額です。7,069円です。これは最下位です。最下位ですが、その上とはどれくらいの差があるのか。その上は秋田県ですが、9,237円という事です。やはり、結論としては2500地区と言うのは一人当たりの寄付額が極端に少ない地域であるという風に言われています。ただ、昨年、副委員長としてこの委員会に携わらせて頂いて、多くの皆様から特別寄付を頂いている気もするんです。

何故、このような結果になっているのかという事を考えてみたいと思うのですが、結局、2500地区の各クラブにばらつきがあるのではないかとこの事です。まず、一人当たりの寄付額というのは、旭川南がダントツで多くなっています。帯広西は第5位15,282円いただいています。5位ではありますが、これだけの人数で、これだけの金額を頂いているという事は、クラブの寄付総額を見ると、1位です。帯広西が2500地区の米山を支えていると言っても過言ではないと思えます。やはり2500地区でのばらつきがある。それはなぜかと言うと、特別寄付がゼロのクラブが多数あります。特別寄付がゼロの所は、個人の普通の寄付が5,000円くらいに高く設定している所もあるのですが、やはりこれだけのクラブがゼロだと、地区の平均単価は下がります。そこで、長平さんに地区に行って頂いて改善をさせて頂きたいと思えます。3年4年頑張ってもらえば、この地域の寄付額があがるのではないかと思います。

結論としては、帯広西ロータリークラブの寄付と言うのは2500地区ではトップクラスです。堂々と地区大会に行けば良いと思えますし、来年、開催出来ると思えます。ただ、その一方で底上げが必要だと思えます。底上げするには、まだまだ時間がかかると思えます。その意味からしても西クラブが支えているという意味からしても、今年度も多くの皆様のご協力をお願い致します、本日の例会とさせて頂きます。